

和歌山県オリジナルイチゴ「まりひめ」の開発

早生、多収で高品質！

1. 開発の背景

本県産イチゴの主要品種「さちのか」は果実品質に優れ市場評価が高いものの、収穫開始時期が12月下旬からと遅く、収量も少ないため生産者にとっては必ずしも収益のあがる品種とはいえない。そこで、早生で収量が多く、果実品質も良い本県オリジナル品種開発の要望が大きかった。

2. 開発の経過

平成14年度に、早生で豊産性の「章姫」を母親、コクのある食味で日持ちの良い「さちのか」を父親として交配した。4年間の選抜と生産者を交えた品種検討会、現地での適応性試験等の結果から、品質・収量とも有望であると判断し、平成20年3月に、種苗登録出願を行った。

この新しいイチゴは紀州の伝統工芸品「紀州てまり」にちなみ、かわいらしく、皆に愛される品種となることを願って「まりひめ」と命名した。

3. 「まりひめ」の特徴

1) 花芽分化・開花特性

花芽分化時期は9月15日前後と推定され、「さちのか」より1週間程度早い(表1)。開花開始は11月初旬、収穫開始時期は12月上旬頃からであり、「さちのか」に比べて2週間以上早い。

2) 収量特性

頂花房の収量が多く、1月までの早期収量が多い(図1)。ただし、第2花房の出蕾がやや遅いため2月の収量はやや少ない。4月までの総収量は「紅ほっぺ」と同等以上、「さちのか

表1 ポリポット育苗における品種と花芽分化程度(2007年)

	9/10	9/14	9/19
さがほのか	2 2 2	4 4 3	4 2 2
章姫	1 0 0	3 2 1	3 2 2
まりひめ	0 0 0	2 2 1	2 2 1
紅ほっぺ	0 0 0	1 1 1	3 2 1
さちのか	0 0 0	1 0 0	1 1 0

注)9cm径黒ポリポット育苗、調査株数:3株、花芽発達段階:0未分化、1花芽分化初期、2花芽分化期、3花房分化期、4顎片形成期

か」の120%以上と多収である。上物率収量(可販果収量に占める13g以上の正形果収量の割合)は80%以上で「紅ほっぺ」の73%に対し高く、果形の揃いが良い。可販果の平均果実重は約19gであり、「さちのか」の15~16gに比べて大きい。

3) 果実特性

果形は肩部がやや丸みを帯びた円錐形で、低温期でも紅色が鮮やかに着色し、果実に光沢がある(表紙写真)。糖度は「さちのか」と同等で、「章姫」より高く、9°以上で安定して高い(表2)。酸度は「章姫」より高く、「さちのか」、「紅ほっぺ」より低い。果皮および果肉の硬さは「章姫」よりも硬く、「さちのか」より軟らかい。

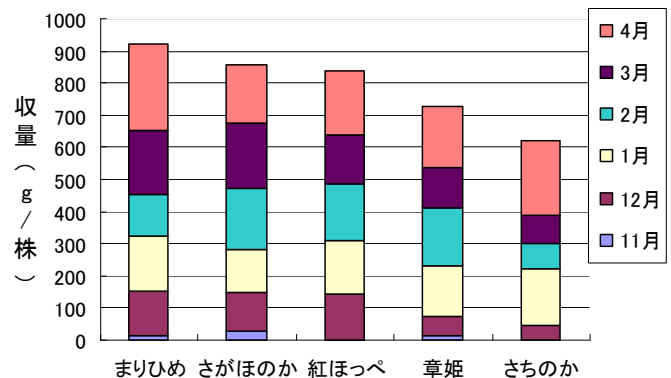


図1 品種と時期別収量(2006.11~2007.4)

表2 品種と時期別の糖度(Brix°) (2007年度)

	12/21	1/22	2/26	3/26	4/23	平均
まりひめ	9.4	10.9	9.4	9.9	9.9	9.9
さちのか	9.5	10.5	9.3	9.8	9.8	9.8
章姫	9.2	9.8	9.3	9.4	9.4	9.4
紅ほっぺ	8.9	9.3	8.3	8.8	8.8	8.8
さがほのか	8.4	7.4	8.4	8.1	8.1	8.1

4. おわりに

「まりひめ」は初期収量が多く、品質も良いため生産者の収益増加につながる品種と考えられる。今後は、「まりひめ」に適した栽培技術を確認し、県オリジナル品種として産地化を目指していく。

(栽培部 田中寿弥)